

文化祭特集



① オーストラリア・ホームステイプログラム ② 2年生・進学合宿(白馬セミナー) ③ 文化祭・優秀クラス表彰 ④ 文化祭・福島の高校生と一緒に

今号はいつもの1.5倍のボリュームのある通信をみなさんにお届けします。

「re:復興」というテーマで取り組まれた文化祭。今年は非公開という条件の中、1・2年生の取り組みをはじめ、素晴らしい企画がたくさんありました。

部活動では柔道部・放送部の全国大会進出に加え、今年は演劇部が中部大会出場の好機もつかみました。新しいチャレンジに拍手を送ります。

夏休みのホームステイや白馬進学合宿。商業科の諸君の健闘にも励まされます。音楽科は2つの演奏会を成功させてまた一段と成長しました。

たくさんの皆の素晴らしさを12ページに凝縮。すべて私たちの誇りのページです。

学校長 井戸 裕久

2013年度前期生徒会役員

生徒会長より

生徒会として、7人の公約を大切にしながら、さらに居心地の良い学校を目指して頑張っています。また、先輩から受け継いだ「震災を風化させてはならない」という思いを胸に、被災者支援募金活動を再開しました。二学期も10月、11月、12月の11日に、中村公園駅前で募金活動を行っています。

みなさんの声をもっとたくさん集めて、笑顔が絶えない学校になるよう頑張ります。

(生徒会長／二村 優伽)

「文化祭をみんなが楽しいと言えるものにしたい」「会長を支えたい」「部活動をもっと盛り上げたい」「食堂のメニュー改革をしたい」…様々な公約を掲げて出馬した彼らは、高い信任率で当選し、生徒会協力員の仲間とともにより良い学校づくりを目指して頑張っています。

(生徒会顧問／小堀・石塚・山本)

会 長	二村 優伽 (一柳中学校出身)
副 会 長	中嶋 駿 (山田中学校出身)
	東川 理桜 (長良中学校出身)
執 行 委 員	小野田 龍 (駒方中学校出身)
	佐藤 文紀 (昭和橋中学校出身)
	井藤 佑紀 (港北中学校出身)
	向井 昇平 (港南中学校出身)

『高校無償化』をめざす取り組みとして



9月28日、愛知黎明(旧・弥富)高校を皮切りとして『オータムフェスティバル』が始まりました。今年度は38会場で開催し、本校も11会場を中心となって運営いたします。

2010年度に「公立高校授業料無償制度・高等学校等就学支援金制度」の創設、2012年には国

際人権規約の留保撤回が閣議決定されるなど、不十分ながら『高校無償化』への歩みが見えました。しかし一方で、2014年度から所得制限(年収910万円)の導入という逆行した内容が報道されてもいます。

また、愛知県は財政不足を理由に私学助成予算を

30億円以上減額し続けており、公私格差はこれまで以上に拡大しています。日本全体でも3人に1人が私立高校に通う現状にあって、「無償の公立に入れなかったのは自己責任だ」と誰が言えるでしょう。誰もが経済的条件に左右されず、自身にみあった、行きたい学校へ入れる世の中にするのが本来ではないでしょうか。私たちの基本スローガンは『教育に公平を』です。子どもと教育を守るため、学校改革・教育改革・授業改革とともに、それを支える「私学助成の充実」をはかる運動を保護者・生徒・市民の皆さんと進めていく所存です。

末筆となりましたが、運営協力券の普及、集会への参加など、多くのお力添えをいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

なお、各地域で行われる集会は日程を残しております。12月の県議会で審議される『請願署名』、ひいては来年度以降の私学教育を左右する重要な活動となります。引き続きご協力をお願いいたします。

(助成金推進協議会／田中)

Schedule

〈行事予定〉

11月			12月			1月		
9	土	第2回学校説明会	2	月	振替休日	7	火	始業式
10	日	電卓検定、秘書検定	3	火	報恩講	10	金	音楽科卒業演奏会
13	水	生徒会立会演説会	7	土	同朋オープンフォーラム・第4回PTA常任委員会	19	日	情報処理検定
22	金	1・2年生普通科期末考査(29日まで)	15	日	修学旅行1団出発(18日まで)	22	水	卒業試験(28日まで)
24	日	ビジネス文書実務検定	16	月	修学旅行2団出発(19日まで)	25	土	1・2年生保護者対象進路ガイダンス
25	月	期末考査(29日まで)	17	火	修学旅行3団出発(20日まで)	26	日	簿記検定
28	木	学園研鑽日	21	土	終業式	29	水	推薦入試

文化祭特集



みんなで取ったアカデミー賞——演劇部門——

305 寛 ももこ
(北名呂屋市立熊野中学校出身)

アカデミー賞が発表された時、今までの苦労がキラキラと輝いて、何にも代えられない素敵な思い出になりました。

夏休み前、クラスの文化祭出校日を決めてから夏休みに入りました。しかしほとんど集まらず、何にも進まないまま夏休みが終わってしまいました。二学期が始まってからもなかなかみんなの気持ちと合いません。夜遅くまで残っているのはいつも同じメンバー……。台本を何度も書き直しました。私はその書き直した台本を家に持ち帰り、ひとりパソコンと向き合いました。『どうして私は……』と思う時もありました。けれどみんなのため、先生のために私ができることをあの時精一杯取り組んで本当に良かったと思います。

他の子も不満がたくさんあったと思います。しかし投げ出してしまうことをせずに最後までやり切ってくれたから結果がついてきたと思います。最後の最後までキャストで話し合いをしました。その話し合いで、全員が意見を出しました。



いつもはなかなか声に出せない子も自分の意見を出してくれて、みんなが本気でこの演劇と向かい合っているのだと実感しました。私はそれがとても嬉しかったです。

受験勉強の合間を縫って練習してくれた子もいました。アカデミー賞が発表された時のみんなの顔が今でも忘れられません。本当に305が良かったです！林先生やつたよ!!



アカデミー賞、ニフエーダービル(ありがとう!)——パフォーマンス部門——

302 森 小春
(菊井中学校出身)



私たち302は「創作エイサー」で、パフォーマンス部門の同朋アカデミー賞をいただきました。ひとこと言わせてしまえば、「おめでとー」で終わってしまう話かもしれませんが、私にとってはそこまでの約二ヶ月間も大切な思い出です。

自分たちで「ダンスをやりたい」、「エイサーをやりたい」と言い出したのに、全然集まらないクラスの子たち。集まってもすぐに他ごとで盛り上がりたしまう。そんなバラバラな中でも何とか夏休みに少しだけ練習を進めましたが、しばらくしてクラス内でケンカが起きました。あまりに練習が進まず、エイサーダンスだった演目がエイサーだけになったことがきっかけとなり、ダンスの子とエイサーの子の間で言い合いになってしまったのです。しかし、それを機にクラスの一人ひとりがもう一度真剣に文化祭と向き合い始めたのです。私はこれからの練習はうと参加者も増えて、スムーズに進むだろうと安心することができました。

二学期が始まり、徐々に「30分だけでも残るよ」とか「何かやることある?」「任せきりでめんね」と声をかけ、参加してくれる子が増えていき、ダンスの子もエイサーの子も全員が楽しめるようなアイデアを出し合って、9月の中旬にはほとんど練習も進むようになりました。こうやって誰かに助けられるたびに、やはり一人の力ではためなのだと痛感しました。舞台監督を任せられ、時には練習の参加人数が少なかったり、思うように物事が進まなかったりして、みんなをまとめるにはいけない立場の私がすべてを投げ出そうとしたこともありました。



正直なところ、辛いことのほうが多かったのですが、励ましてくれる友だちに助けられ、最後まで無事やり通すことができました。クラスのみんなも私自身も、一人では何もできなかったと思います。一緒につづのことを創り上げるのがとても大変なことも学びました。

私は苦しい日々を一緒に乗り越え、最高の思い出をプレゼントしてくれた302を誇りに思います。



間に合わせなければ! みんなでつかんだアカデミー賞——創造——

101 中島 花奈
(柳中学校出身)

初めての文化祭。私は、高校の文化祭がすごく楽しみで、文化祭準備を積極的に参加したいと期待に胸を膨らませていました。私たち101は、野外ステージの壁面にペットボトルキャップを使ったモザイク壁画を作ることにしました。

最初は「キャップが必要な数だけ集まるのか」「モザイク壁画と教室企画の両方を完成させることができるのか」と不安がある中で作業を始めることになりました。

夏休みは、集まることのできる人が集まって作業しようとしたが、なかなか人が集まらず大変でした。しかし2学期が始まり、文化祭が近づくにつれて時間ぎりぎりまで残って作業してくれる人が増えていきました。結局、作業は文化祭当日の早朝までかかりましたが、完成させることができましたので本当に良かったです。

文化祭当日は、友人と写真を撮ったり、2年生のクラスの展示を体験したりととても盛り上がり、楽しかったです。

3日間、クラスでも教室展示を行いました。が、あまり人が来なくて残念でした。しかし、クラスがつになり、誰もが完成しないかもしれないと思っていた教室企画が完成したことはとても嬉しかったです。



準備期間中、クラスメイトが私に「間に合うかな?」って聞いてくることがありました。私は「間に合わないかもしれない」「間に合わせるよ!」と、弱音を吐いたり強気な返事をしたりしていました。でも、「間に合わせるよ!」と言って本当に良かった。その言葉で「間に合わせなければ!」と、頑張ることができたからです。

普段、あまり頑張ることをしない私にとって、今回のクラス活動は自分を成長させる良い機会となりました。クラス企画の中心で活動させてもらった私が指示を出す、嫌な顔つせず作業に取り掛かってくれて、クラスメイトにとっても感謝しています。101のみんなで取ったアカデミー賞は、私の生の宝物になりました。

文化祭 受賞クラス一覧

アカデミー賞 (学年別最優秀賞)

1年生	創造～つくる～	101	ペットボトルキャップモザイク壁画「Peaceful Earth」
2年生	同朋ミュージアム	209	沖縄の祭り
3年生	演劇	305	ユタと不思議な仲間たち
3年生	パフォーマンス	302	創作エイサー

ベストクラス賞 (生徒による投票)

1年生	創造～つくる～	110	りょーちゃんモザイクアート
2年生	同朋ミュージアム	202	流しうどん The Art of UDON ～うどんの技術～

PRECIOUS ～私たちの大切な仲間～



2013年度文化祭を振り返って



2013年度の文化祭は、「Re...復興」というテーマのもと、各企画をもう一度見直し、質の向上を目指して取り組まれました。1年生では「創造（つくる）」という部門の中で、巨大壁画を作ったり、エゴを意識した創作物が生まれたり、各クラスの創意工夫が見られました。2年生では「同朋ミュージアム」ということで、さまざまな企業に協力を仰ぎ、共同開発や体験教室、試食コーナーなどの参加を追究した企画がずらりと並び、同朋文化祭の新しい地平を切り拓きました。また、3年生では「演劇パフォーマンス、映画の中からクラス企画を決定していきました。映画製作で勝負をするクラスはありませんでしたが、多くのクラスで映像を上手く利用した演劇パフォーマンスが生まれ、観る者を唸らせる熱演が終日体育館を熱くしました。



実を自分たちの問題として捉え、考える時間を生み出すことに成功しました。
同朋の文化祭は「文化の祭り」です。そこでは、生徒達の主体的な動きが、発見や感動、新たな疑問を生み、次なる歴史を創っていきます。今年度の経験を来年に向けて蓄積し、さらに意義深いものを創っていくよう、共に歩んでいきたいと思っています。

(文化祭統括担当/小堀)

PTAバザー早々に売り切れました!



文化祭2日目に、恒例のPTA4委員会によるバザーが開催されました。今年は文化祭が非公開となり、昨年のように模擬店会場が他校からの来校者で賑わうということが望めなかつたので、各委員会とも例年より販売予定数量を抑えての開催となりました。当日は天候に恵まれ、また、数量を制限したために事業委員会の焼そば、地域懇談会からの揚げは早い時間での完売となりました。両委員会のみなさんからは「もう少し量を増やしておけば良かったかな」という声が聞かれたほどでした。生活指導委員会の物品バザーは例年物品を集めるのに苦労していましたが、今年は1学期から物品が集まりはじめ、当日は会場いっぱいにお値打ち品をそろえることができ、来場者には好評でした。文化委員の喫茶スマイルも、相変わらずタピオカが評判で、準備に大忙しとなりました。

バザー全体の収益は昨年の63%ほどとなりましたが、生活指導委員会の物品バザーは例年比70%、文化委員会の喫茶は前年比79%と大健闘、両委員会のご奮闘により全体売り上げの減少をカバーしていただきました。

PTAのバザーの他にも、学園父母懇談会のバザー、生徒によるクラブバザー、卒業生保護者のバザー、太鼓サークルによるバザーが開催され、こちらも盛況でした。

今年度の文化祭は非公開で、いつもより模擬店利用者は少なかったようですが、開店と同時に生徒たちが店舗に並び、やはり文化祭の模擬店は生徒たちの楽しみの一つになっているようです。

(PTA担当/瀧)

柔道部

多くの支えで成しえた
インターハイ出場

301 森 彩華

(知多市立東部中学校出身)



私の中学校時代の柔道の成績は、東海大会2位でした。だから、「高校では全国大会に出場する」という目標ができ、同朋高校に入学することを決めました。

私の高校生活は、柔

道色です。平日は始発の電車で登校し、朝稽古のあと授業を受け、授業後はまた稽古を行います。土曜、日曜、祝日や夏休みなどの長期休暇も休まず稽古です。休んでいたら、ライバルに追いつかれ、追い越されてしまうからです。遊びたい気持ちを我慢して、毎日厳しい稽古をします。柔道の稽古だけでなく、ウエイトトレーニング、ランニングトレーニングは当たり前です。入学したばかりの頃は、なかなか先輩のようにメニューをこなせず、悔しい思いをしたことを覚えています。でも、今は入学したばかりとは違い、体力も上がってきました。こうした努力が実り、2年生の終わりにには選手権に出場でき、3年生の夏にはインターハイに出場することができました。

私が3年間頑張つて柔道を続けられたのは、休日を割いてまで私たちに指導してくださる藤山先生と中田先生。そして、厳しい稽古を一緒に乗り越えてきた家族のような仲間たち。朝が早く夜が遅い私を見守ってくれる両親。いつも笑顔で元気をくれた友達を支えがあったからです。私一人ではここまで続けることはできなかったと思いますので、感謝の気持ちでいっぱいです。

高校を卒業後も、大学で柔道を続けるつもりです。これからも感謝の気持ちを忘れず、柔道も勉強も学校生活も頑張りたいです。

放送部

5年がかりのドキュメンタリー
が全国大会に！

306 丹羽 祐

(二色中学校出身)

放送部は3年ぶりに全国大会(NHK主催全国高校放送コンテスト)に出場しました。創部以来5回目の出場です。この間、放送部は毎年のようにテレビドキュメント、ラジオドキュメント、テレビドラマ、ラジオドラマの4部門に出品しています。今回のラジオドラマ部門は、オリジナル台本で臨んだ「金魚」が愛知県大会で入選しました。また、テレビドキュメント部門「肉弾攻撃」とラジオドキュメント部門「薬物依存症とたたかう!」の2部門が全国大会に選ばれました。

「肉弾攻撃」は、沖縄戦を扱うドキュメント3部作の完結編です。沖縄戦で下士官だった3人の元兵士から証言をいただき、加害者にさせられた苦しみを表現しました。証言をしてくださる方のお宅に何度も訪問しながら、5年がかりで作成したドキュメントです。それだけでなく、沖縄修学旅行を利用し、沖縄の高校生にも協力してもらいました。

「薬物依存症とたたかう!」は、保健室の先生からお話を伺いながら、名古屋ダルクのみなさんの協力を得て、薬物依存で苦しみ、立ち直ろうとするHさんを中心に取り上げました。音楽科の部員によるオリジナル効果音やBGMなど、放送部員が総力を挙げて作った作品です。

著作権に伴う作業など目に見えない苦労がたくさんあったこともあり、完成した作品は最高の出来栄となりました。また、テレビドキュメント部門に出品した「肉弾攻撃」は、全国大会準決勝まで進出し、制作奨励賞をいただくことができました。



演劇部

中部大会出場にあたって

301 川島 大樹

(山田中学校出身)



大会名:第66回中部日本高等学校演劇大会
日時:12月25日~28日
場所:パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)
同朋高演劇部上演日時:12月25日(水) 10時10分~11時10分
演目:「青春法度」
作・演出:児玉健吾(山田中学校出身)

私たち演劇部は今年、地区大会県大会を勝ち抜き、17年ぶりに中部大会に進むことができました。最初は私たちの世代が中部大会へ進出できるなど夢にも思いませんでした。しかし、結果発表の時に、同朋高校の名前が呼ばれたとき、嬉しいという気持ちとこれは夢ではないかという信じられない気持ちの両方の気持ちが湧きあがりました。私にとって中部大会というのは、テレビの中のドラマを見ているのと同じくらいの感覚です。まさかその舞台に自分たちが立てるなんて、正直今でもあまり実感がありません。しかし、たくさんのお客さんの前でお芝居ができるというのはとても幸せなことです。さらには同じメンバーで一緒にもう一度同じ劇を作り上げ、中部大会という素晴らしい舞台へ行くことができる機会に恵まれ、とても嬉しかったです。

私は中学時代、部活動にはあまり熱心ではありませんでした。同朋高校で入部した演劇部も、当初は「人前で緊張するの」が少しでも無くなればいいなという軽い気持ちでした。しかし先輩たちと一緒に

劇を作っていく過程の中で、辛さあつての楽しさを知ることができ、今は演劇部に入ったことに大変満足しています。

私たち3年生にとっては泣いても笑っても最後の公演なので、今まで以上に脚本を読み考え、今まで経験してきたことをすべて活かして、練習に臨みました。さらには3年生になった今年、最上級生として後輩を引っ張る立場にもなりました。嬉しかったことは、後輩たちも必死に練習に取り組んでくれたことです。それに負けまいように私も練習に取り組みました。

地区大会、県大会を振り返り、中部大会に向けて改善できる点はまだまだあります。さらに質の高い演劇を作り、劇場に足を運んでくださる人たちに楽しんでもらえるよう部員一同、一致団結して頑張っていきます。

先輩からのメッセージ

プロバスケットボール選手

原田 直哉さん
(2001年度商業科卒業)

私は同朋高校を卒業してから、立命館大学へ進学し、4年間学業とバスケットボールに打ち込み、現在は愛知県の尾張地区に本拠地を置く豊田合成株式会社に勤務しながら、日本のトップリーグに所属する会社のバスケットボール選手として活動を続けています。

今の会社に就職した理由としては、以下の2つがあります。まずは、生まれ育った地元企業であり、今までお世話になった地元の方々へ何かを通じて恩返しができること。そして、クラブ活動にも熱心な企業で、バスケットボール選手を続けられることです。

現在は、安全健康推進部という部署に所属し、労災保険の申請や、設備の事前届出など官庁への申請業務を担当する一方、バスケットボール選手として就業後に練習を行い、週末に試合で全国を転々とするという充実した日々を送っています。仕事優先なので、仕事の免除はほとんどありませんがこの厳しい環境の中、全力プレー



〈原田 直哉〉
豊田合成スコピオンス所属
愛西市立佐織中学校出身。

同朋高校在学中は、愛知県国体代表選手に選出。複数の大学からの誘いを受け、一番熱心だった立命館大学に進学し、関西学生選抜メンバーとして活躍。大学卒業後は、豊田合成に入社。
身長194センチの長身。

で戦います。試合に勝った時の喜びは格別です。

同朋高校に入学する前は、正直、バスケットボール部に入部するつもりはありませんでしたが、体験入学でのバスケットボール体験がきっかけとなり、私は同朋高校への入学とバスケットボール部への入部を決断しました。入学したばかりの頃は、部活動の練習が大変で、学業がおろそかになった時期があり、よく先生に怒られたことを今でも覚えています。しかし、怒るだけではなく、個別でいろいろとアドバイスをいただき、卒業するころには、学業と部活動を両立できるまでに成長できました。

同朋高校には、一人ひとりの個性を大切にしながら、自分のやりたいことを思い切りやらせてもらえる環境があります。また、どんなに大きな壁に当たっても、それを全面的にサポートしてくれる先生や仲間がいます。それを信じて、頑張ってもらいたいです。



Club & Award News

柔道部

- | | |
|--------------------------------|-----|
| ● 第67回愛知県高等学校総合体育大会柔道競技 | |
| 女子団体 | 第2位 |
| 女子63kg級 菅 真琴 | 第3位 |
| 女子78kg級 森 彩華 | 優 勝 |
| 女子78kg超級 福安 幸叶 | 第3位 |
| ● 第16回全日本ジュニア柔道体重別選手権大会愛知県予選 | |
| 女子63kg級 菅 真琴 | 第3位 |
| 女子78kg級 森 彩華 | 第3位 |
| 女子78kg超級 福安 幸叶 | 第3位 |
| ● 平成25年度少年男子国民体育大会柔道競技愛知県二次予選会 | |
| 男子63kg級 高木 陽太 | 第3位 |
| 男子73kg級 木全 大基 | 第3位 |
| ● 平成25年度少年女子国民体育大会柔道競技愛知県二次予選会 | |
| 女子52kg超級 松本 悠里 | 準優勝 |
| 女子52kg超級 橋口 史佳 | 第3位 |
| 女子70kg超級 小山 華奈 | 第3位 |
| 女子無差別級 山本 さくら | 優 勝 |
| ● 第60回東海高等学校総合体育大会柔道競技 | |
| 女子63kg級 森 彩華 | 第3位 |
| ● 平成25年度国体少年の部最終選考会 | |
| 女子無差別級 山本 さくら | 第3位 |
| ● 平成25年度愛知県私学祭体育大会 | |
| 女子団体 | 優 勝 |
| 男子団体 | 第3位 |
| 女子個人無差別 上山 慧真 | 準優勝 |
| 女子個人無差別 小山 華奈 | 第3位 |

剣道部

- | | |
|-------------------------|-----|
| ● 第55回市民スポーツ祭高校女子の部剣道競技 | 第3位 |
|-------------------------|-----|

ラグビー部

- | | |
|-----------------------|-----|
| ● 第67回愛知県高等学校総合体育大会 | |
| ラグビーフットボール競技名南知多支部予選会 | 準優勝 |
| ● 平成25年度愛知県私学祭体育大会 | 第3位 |

放送部

- | | |
|---------------------------|-----------|
| ● 第60回NHK杯全国高校放送コンテスト | |
| テレビドキュメント部門 「沖縄戦・肉弾攻撃!!」 | 全国大会制作奨励賞 |
| ラジオドキュメント部門 「薬物依存症とたたかう!」 | 全国大会出場 |
| 創作ラジオドラマ部門 「金魚」 | 愛知県大会入選 |

演劇部

- | | |
|-----------------------|-----|
| ● 第66回中部日本高等学校演劇愛知県大会 | 優秀賞 |
|-----------------------|-----|

書道部

- | | |
|-------------------|-----|
| ● 第12回岐阜女子大学全国書道展 | |
| 加藤 誠史 | 奨励賞 |



今年の夏休みに、2年生の進学合宿「白馬セミナー」に参加しました。実際に参加してみると、1日の半分以上が勉強。想像以上のシンドさに正直、投げ出してしまいたいこともありました。解いたことがないセンター試験の数学や英語の問題や、初めて触れた小論文の課題に太刀打ちできず、悔しくて涙が出たこともありましたが、周りの友達と一緒に勉強したり、教え合ったり、時にはライバルとして切磋琢磨することで、この合宿に参加した仲間たちみんなと乗り越えることができました。

また気分転換を兼ねた白馬観光では、ゴンドラに乗ったり、高原ではみんなでソフトクリームを食べ、周りを散策したりと有意義な時間を過ごしました。



切磋琢磨して学んだ白馬セミナー

206 仁科 恵梨子
(守山北中学校出身)

過すことができました。お世話になった民宿「かねぶん」のみなさんは本当に温かい人ばかりで、毎日の食事もおいしくついつい食べ過ぎてしまいました。同朋高校が30年間お世話になってきた、このかねぶんさんも、今年を最後に宿を閉められます。私たちは合宿最後の日にお別れ会を開き感謝の気持ちを込めて「旅立ちの日に」を合唱し、白馬での最後の学習合宿を別れの涙で締めくくりました。

四泊五日という短い時間でしたが、先生や友達と多くの時間を過ごし、普段は見られない友達の二面を見て、さまざまな語り合いをしました。この合宿を通じてより多くの友達と打ち解けることができました。私はこの「白馬セミナー」に参加できて本当に良かったです。

進学合宿

長野県
白馬村

今年も7月28日(日)から8月1日(木)にかけて4泊5日の日程で長野県白馬村において「進学合宿(白馬セミナー)」を実施しました。今回は40名の生徒が参加をし、活気溢れる合宿となりました。これまで30年にわたってお世話になった民宿「かねぶん」さんが今年で営業を終了されることとなり、同朋高校の歴史においても一つの節目となりました。

オーストラリア・ホームステイプログラム

Commonwealth of Australia
August
3-18
2013
HOMESTAY

8月3日(土)から18日(日)までの16日間。1年生2名、2年生18名、3年生3名の計23名と引率教員2名で、姉妹校であるUnity Collegeへ語学研修プログラムに行きました。天候にも恵まれ、自然豊かなオーストラリアを思いっきり満喫することができました。

このオーストラリア・ホームステイプログラムも節目の10回目を迎えました。プログラムを無事に終えることができたことを喜ばしく思うと同時に、本研修実施にあたってご尽力いただいた関係の方々へ心よりお礼を申し上げます。より一層充実したものになるよう努めますので、来年度も宜しく願い致します。

(国際交流委員会/丸山)

いつかオーストラリアに戻ってくる またいつか会おう

206 金子 航 (東郷町立諸輪中学校出身)

僕は正直このホームステイに参加するのが怖くて、不安と参加申請したことへの後悔でいっぱいでした。「日本から離れたくない」という気持ちもむなしく、出発の日になりました。僕はセントレアに向かう車の中、緊張のあまり両親の言葉がまったく耳に入ってきませんでした。セントレアに到着し一緒に行く同級生と話をすると、少し気が楽になり、前向きに挑もうという気になりました。

飛行機の中で色々と考えていました。「僕は本当に大丈夫なのだろうか。ホストファミリーと上手くやっていけるだろうか」と考えているうちにオーストラリアに着きました。入国手続きを終えてバスに乗り、2週間お世話になる学校へ。オーストラリアの地に立ってまず思ったのは「寒い!」でした。8月の日本は夏であり、真冬のオーストラリアでかなり薄着をしていた僕は、ホストファミリーに会うまでずっと寒さに震えていました。

そしてホストファミリーとの対面の時、僕はまだ知りませんでした。このホストファミリーとの別れがどれだけ辛いものになるかなって…。

気づけばすぐに時は過ぎていきました。迎えた「Farewell Party」の日、僕はホストファミリーに向けて、「できればオーストラリアにずっといたいです。英語を勉強して、いつかまたこのオーストラリアで会いましょう」と手紙を読みました。

目を閉じればいろいろな思い出が今でもよみがえります。ホストファミリーと海へ行った事、オーストラリアの海の美しさに言葉を失った事、バッチングセンターに連れて行ってもらった事、ショッピングに行った事、ホストブラザーと一緒に互いの国の音楽を教えあった事

など、僕の胸いっぱいになっています。

別れの日の前日、とても豪華な料理がずらりと並んでいました。食後は家族みんなでゲームなどをして、あっという間に時間が過ぎてホストブラザー、シスターは寝る時間。

ホストシスターが僕にしがみついて泣きながら何か言いました。しかし、僕ははっきり聞き取れませんでした。「目が覚めたら、もう君はいないんだね。そんなの嫌だ」と言っていたのです。僕はいつかオーストラリアに戻ってくる事を決意し、こう言いました。「僕はいつかオーストラリアに戻ってくる。また、いつか会おう」。言っている途中、自分でも気が付きましたが、確かに僕は泣いていました。あんなにオーストラリアに行くことを恐れていたのに、終わる時に泣けるというのは僕にとって大きな進歩だったと思います。

このオーストラリアで過ごした2週間は、この先ずっと僕の胸に強く残ることでしょう。英語が苦手とか、話せないからこのプログラムに参加しないなんてもったいないと思います。僕は、確かにオーストラリアに行くことを恐れていましたが、勇気を出して行ってきて本当によかったと思います。またいつか、ホストファミリー達と会っても恥ずかしくないように英語の勉強を頑張りたいと思います。

I believe in future.



9/ アンサンブル演奏会

演奏会を楽しもう！

310 園部 未来

(大治町立大治中学校出身)

9月7日に、アンサンブル演奏会が行われました。私は、稲垣舞香さん(志多味中学校出身)とピアノ「重奏」で出演し、ホルスト作曲の「ジジター」を演奏しました。3年生ということで、出演順は最後でしたので、とても緊張しました。

練習を始めたのは、6月中旬でした。まだ時間があると思つて、マイペースに練習していましたが、夏休みが近づくにつれて焦りが出てきました。2台のピアノを使うので、相手に迷惑をかけたくない、という思いでした。



夏休みからは、2人で合わせてのレッスンを増えました。夏休み明けには、ピアノの実技試験もあるので、両立することはとても大変でした。でも、2人で練習して合わせるうちに、ビタリとあつた時の喜びを感じ合えるようになり、楽しくなりました。

夏休みが終わるころのレッスンでは、田辺先生も森先生も「あとは楽しんで弾いてね」と言ってくださつたので、心の底から演奏会を楽しもうと思えました。



演奏会当日。リハーサルの段階で緊張していた私は、たくさんのミスをしてしまいました。本番では若干のミスはありましたが、演奏を楽しみました。手と合わせることの難しさと楽しさを知ることができ、勉強になりました。また機会があれば、ピアノ「重奏」をもう一度やりたいです。

みんなで作り上げた最高の演奏会

10/4 合唱・オーケストラ演奏会

310 山口 真紀

(大高中学校出身)

今年の合唱・オーケストラ演奏会は、私にとって最後の定期演奏会であり、今までの2年間とは少し違った気持ちで臨みました。4月に1年生を迎え、さつそく10月の演奏会に向けた練習が始まりました。曲の歌詞



は日本語ではなく英語なので、練習を始めたころは、歌詞の発音を二つで確認して、旋律に乗せながら歌うことで精一杯。細かい部分まで手が回りませんでした。一時は大丈夫かと思つたこともありました。個人練習を繰り返し、時間が経つにつれて少しずつまとまってきました。

2学期に入つてからは、英語の先生に発音の細かな部分をレクチャーいただいたり、振り付けが加わるなど、本番に向けた形ができあがってきました。細かな動きなどを直し、確認することには大変でしたが、本番が近づくにつれ、ワクワクしてきました。

また、私は「Time To Say Goodbye」の伴奏も弾きました。電子オルガンで、合唱の伴奏をすることは初めてでした。

ので、先生からの表現などの要望に応えることも大変で、何より合唱と合わせることも想像以上に難しく苦勞しました。しかし、伴奏を通じて学んだこともたくさんあります。とても良い経験ができたと思えました。

本番では、発表直前に「頑張ろう」とお互いに声をかけあい、みんなが1つになつてステージに立つことができました。発表が終わつてから、クラスの仲間や母親から「良かったよ」「感動したよ」と言ってもらうことができて、とても嬉しかったです。

今年の演奏会を振り返り、「みんなで作上げた演奏会」だということを改めて実感することができました。私たちだけではなく、多くの方が協力してくださつたおかげで、素晴らしい演奏会になったと思います。今回学んだことは、卒業してからもつなげていきたいです。



職業教育技術顕彰をいただきました



愛知県は職業資格の取得を通し、技術・技能の習熟、目的意識をもって充実した学校生活を送り、将来に渡り豊かな職業生活を営むことを目的とした技術認定制度があります。

本校からも日頃の学びの成果が実り、商業科3年生の生徒を中心に22名の生徒が愛知県知事から職業教育技術顕彰が授与されました。

顕彰が授与されたことに自信を持ち、これからも学びに対して真摯に取り組んでもらいたいです。

(商業科主任／平野)

愛知県職業教育技術顕彰受賞者

安藤 琢郎	徳武 宗一郎	平野 隼大	稲垣 佐耶果	犬飼 美優	高津 歩未	辻本 有沙
土井 美沙季	林 真帆	松浦 有里	屋貝 咲希	安井 はるか	秋田 隼大	達原 健太郎
井口 早紀	板倉 萌香	市川 敦子	片山 明香	酒井 優	真田 幸恵	西出 真夕
福手 千佳						

「いつ話すの?今でしょ!」つながる話せる同朋LINE!

2013年度地域懇談会

～誰も知っている人いないから…なんて言わないで～

学年・科・クラスの枠を超え、居住地域ごとに保護者が集まる「地域懇談会」は、今年で37回目を迎えました。学校での学級懇談会とは雰囲気が違うこの地域懇談会に、今年も多くの保護者が参加されました。

懇談会では地域ごとに独自の企画が準備されました。今年は教員だけではなく、体育大会や卒業式の映像の上映、在校生による体験発表など学校を知る企画も好評だったようです。

地域によっては、懇談会後に食事を取りながらの懇親会が準備され、保護者同士が和気あいあいとした交流を行った地域もありました。

(担当教員／岡田)

地域懇談会は、子育てについて気になることや困っていること、悩んでいることなどを気兼ねなく話すことができ、上級生や卒業生、卒業生の保護者などからのアドバイスをもらえる場となっています。

今回の地域懇談会で交流された意見については、学校で検討し、12月7日(土)に開催が予定されている「同朋オープンフォーラム」で同朋高校の見解として報告されます。こちらもぜひ多くの方の参加をお願いいたします。



今まで保護者同士の関わりがなかったので少し不安でした。今日はじめてこのような会に参加して、お母様方や先生方のお顔も分かり、今後親としても安心かなと思いました。生徒の通学範囲の広い高校だから、地域懇談会がとてもありがたいです。校長先生も参加してください、アットホームな会です。ありがとうございます。

(参加者からいただいた感想文より)

8月25日 PTAバスツアー 今年は高山で研修しました!

バス2台82名の参加者を乗せ、高山へPTAバスツアーに出かけました。昼食は、飛騨亭・花扇での会席料理。2時間の昼食時間があつという間に感じるほど、和気あいあいとPTA会員同士懇親を深めました。中には、足湯に浸かってのんびり過ごした方もいらっしゃいました。

その後、高山の古い町並みを自由散策しました。「古い町並み」は、商人町として発達した三筋のことで、出格子の連なる軒下には用水が流れ、造り酒屋には看板ともいわれる杉の葉を玉にした「酒林」が吊るされていました。

情緒あふれる街並みをのんびり歩き、飛騨牛寿司、五平餅、高山ラーメンなど食べたりうさぎや小鳥などをモチーフにした小物のお店でお土産を買ったりして過ごしました。

PTA文化委員の皆さんが、バス内レクリエーションとして同朋クイズやビンゴゲームを準備して下さい、大変楽しいバスツアーとなりました。

(PTA担当／日比)



第45回 同朋高校音楽科

卒業演奏会

平成26年1月10日(金)

会場：名古屋・伏見 電気文化会館
ザ・コンサートホール開場：18時00分
開演：18時30分入場
無料